

掲 示 板

2017年度第1号 通巻第87号 2017年6月18日



カシワバアジサイ

身のまわりにある不思議をシェアしませんか？

今年度からフィールドレポーターの主担当となりました、大槻達郎です。これまで琵琶湖の湖岸に生育する海浜植物の進化について研究してきました。琵琶湖に最も近い博物館に勤務できて、本当にうれしいです。どうぞよろしくお願いいたします。

最近は何かを調べる時にはすぐにインターネットで検索してしまいましたが、本当に知りたいことは見つからないものです。例えば、うちの近所で見られる生き物が滋賀県のどこで見られるのか？こうしたことを調べるのに1人の力では限界があります。しかし、フィールドレポーターのみんなで調査することで、そうした疑問が解決するかもしれません。このようにフィールドレポーターの活動を通じて、身のまわりにある不思議をシェアするとともに、みんなで視野を広めていけるといいなあと思っています。自分達で調査し、滋賀県内の仲間と集めたデータを基に新しい発見の喜びを皆さんに味わって頂ければと思います。

調査票を送っていただくのはもちろんのこと、身近な発見を掲示板へ投稿していただくことや、定例会（毎月第1・第3土曜日）へ参加していただくことも、大歓迎です。

琵琶湖博物館は昨年のリニューアルに続き、第2期リニューアルでは「大人のディスカバリールーム」をはじめ、みなさんの「知りたい」に応える機能を充実させます。ぜひ足をお運びください。

今年度もフィールドレポーターの活動を通じて、多くの発見と新たに湧き上がる不思議に出会えることを楽しみにしています。

フィールドレポーター担当学芸員 大槻 達郎

☒ ☒ 📖 📖 📖 も く じ 📖 📖 📖

	表題	大槻達郎	P1	5	草津のサンヤレ祭り、他	久保和友	P11
1	フィールドレポーター 交流会の報告	中野敬二	P2	6	続 近江八幡の怪しい タンポポ	前田雅子	P12
2	新学芸員紹介		P4	7	大津市街今年のカンサイ タンポポ	近江心気郎	P14
3	カイツブリ調査中間報告	前田雅子	P8	8	アキアカネ夏の調査開催	椋島昭紘	P15
4	ツバメの子育て観察	椋島昭紘	P10		お知らせ		

1. フィールドレポーター交流会の報告

s 中野敬二

フィールドレポーター登録者やフィールドレポートに関心のある方々にチラシ配布を中心にした呼びかけを4月に入ると同時に行い5月20日（土）に博物館生活実験工房で開催されました。

今年度の内容は昨年度実施された「飛び出し坊やを調べよう」と「2016年度ミノムシ調査」の報告に加え、今年度第1回調査の「カイツブリに会いにいこう」に因み烏丸半島周辺での観察会、そして懇親会の順に進められました。

少し暑めでしたが良い天気にも恵まれ参加者も述べ30名近くとなり、報告に対する意見交換も活発でした。

報告後の休憩時間では生活実験工房の中川さんの準備してくださった柿の葉茶など5種類の自然茶に加え、そら豆とサヤエンドウの煮付けまで添えて頂き、大変おいしく頂きました。プラス、タンポポティーも用意されていました。



ご挨拶

大塚泰介学芸員

フィールドレポーターの活動の経緯、活発化が述べられました。

ここからはフィールドレポータースタッフ（FRS）の調査報告です。

発表-1

「飛び出し坊やを調べよう」 FRS 中野敬二

飛び出し坊やの数の多さ、種類の多さ、支持する人の多さを中心に具体的な数値を上げて報告があった。レポートでは十分に出せなかった写真をパネル化して工房内に張り出し目で見て実感する報告内容になっていた。（写真提供 FRS 津田國史さん）



昨年の飛び出し坊やの調査を担当していた大久保学芸員が身重をおしてコメントをして下さいました。

コメント：大久保実香学芸員

その姿形の多様性と飛び出し坊やの数が、とても多くの人たちに見守られ支えられている実態がよく分かりました。多くの報告をしてくださったレポーターの皆さんに感謝します。

発表-2

「2016年度ミノムシ調査」 FRS 柁島昭紘

2011年調査との比較で進められオオミノガのその後どうなっているかの追跡調査として報告された。絶滅の懸念については小休止的な判断になっていた。



(写真提供 FRS 津田國史さん)

コメント: 柁永一宏学芸員

オオミノガは寄生バエが見つかる所で幼虫が見つかるなど一進一退の状況がみられますが、寄生バエのオオミノガヤドリバエは原産地が中国南西部の温暖な地域です。温暖化と共に生息域の拡大が懸念されるので継続的に観察した方が良いでしょう。またチャミノガは今回減っていたのでこれも注意して観察した方が良いでしょう。

観察会

「カイツブリ調査」に先がけて 指導 亀田佳代子学芸員



(写真提供 妹尾学芸員、FRS 津田國史さん)

双眼鏡、固定望遠鏡を持って赤野井湾を観察場所として実施。カイツブリも無事観察できた。



和気あいあいの交流会

飛び出し坊やの数の多さにびっくりした参加者が自然茶の多さに又びっくり。

昨年度テーマ「タンポポ」の報告後タンポポティーが飲んでみたいというリクエストにこたえ準備されました。

タンポポティーの講評

- 濃く出した方がおいしい
- 苦くない
- 意外にこくがある
- 一回作ってみたい気も！



[色々準備していただいたごちそう]

2. 新学芸員さん紹介

この春は5人の学芸職員さんが琵琶湖博物館に着任されました。これからの調査や観察会、交流会などのフィールドレポーターの活動で、一緒に活動することがあるかもしれません。新学芸員さんのことを少しでも知ってもらおうと、スタッフでからいくつかの質問とともに、自己紹介をお願いしました。また、昨年10月から勤務されている妹尾学芸員にも改めて自己紹介をお願いしました。お忙しい中、皆様ありがとうございました。

アンケートでは下記の4つをお尋ねしました。

1. どのような研究・仕事をされていますか？
2. その研究・仕事のどのような点に面白さを感じていらっしゃいますか？
反対に、苦勞されることは何でしょうか？
3. ご出身はどちらですか？ お国自慢もお願いします。
4. 仕事以外で得意なこと、好きなことを教えてください。

学芸員さんのコメントに使ったイラスト全ては
“かわいいフリー素材集 いらすとや” <http://www.irasutoya.com/> より使用

田畑 諒一さん（魚類学）

〈専門分野〉 日本の淡水魚、特に琵琶湖の魚の起源や進化、歴史について遺伝子の情報を使って研究してきました。博物館では、それ以外に形態の情報なども使って、琵琶湖の魚の進化や琵琶湖への適応を研究する予定です。

〈その面白さや苦勞〉 琵琶湖の魚たちを採集し、その背景にあるダイナミックな進化の歴史を推定できるところが、この研究の魅力だと思います。分子実験や解析については、現在、日々進歩していて、知らないことがわかっていく反面、それに付いて行くのが大変です。

〈出身地とお国自慢〉 秋田市、川崎市、京都市に10年ずつ住んでいました。秋田は田んぼの水路とかに魚がいっぱいと自然があるのはもちろんのこと、川崎も近くに多摩川があって、たぬき何かも出る自然がありました。

〈得意なこと・好きなこと〉 魚釣りや魚の飼育が好きです。あと、小学校から大学まで野球をしていました。今はほとんどプレーしていませんが、自分の子が入っている少年野球チームのコーチをしています。



片岡 佳孝さん（水産学）

〈専門分野〉水産の技術職です。これまで水産試験場、醒井養鱒場で水産重要種を対象として資源量調査や増殖について研究してきました。キャリアとしては、溪流魚（アマゴ・イワナ）やアユの研究に従事してきた期間が長いです。



〈その面白さや苦労〉フィールド調査やサンプル処理はしんどいですが、そんな中で「今、この事実を知っているのは、たぶん自分だけ」と思える瞬間があったりします。

〈出身地とお国自慢〉埼玉県です。埼玉の良いところは東京に近いということだけですね。私的には、滋賀県のほうがずっといいです。車で1時間も走れば、アユ釣りや溪流釣りができますし、ゲンジボタルも飛んでいますし。

〈得意なこと・好きなこと〉昨年末から、ちゃんと先生についてバイオリンの練習を再開しました。音楽は美しいです。音楽なんて、簡単に言ったら、音を組み合わせただけのもの、なんですけどね。その不思議さとそれを作り上げた人間というものに感動します。

山本 綾美さん（森林・林業）

〈専門分野〉森林に関する事、林業に関する事何でも聞いてみてください。今年度は森林環境学習について取組みます。

〈その面白さや苦労〉林業は“業”なので木材を生産しています。でも、普通一般の産業とは違って、非常にサイクルの長い仕事です。おじいさんが植えて、収穫できるのは孫の時代なのです！植林したおじいさんの時代と今では、社会背景が急激に変化してしまいました。この事が今の林業に様々な苦労を生んでいます。森林環境を環境面からだけ考えては守れない。産業として成り立ってこそ、人が山に関わり続けられると考えています。今の私の行為が未来の子ども達に影響していることをつぶさに感じる仕事です。



〈出身地とお国自慢〉いろいろ引っ越しをしていますが、滋賀県育ちです。とても美しい所だと思っています。観光する所が無いとよく聞きますが、我が家はアウトドア家族なので行くところを選ぶのが大変なくらいです。春は桜と菜の花を眺めながら西の湖でカヌー、夏は山登り、秋は琵琶湖周辺サイクリング、冬はスキーetc どの季節も楽しく遊ぶことが出来ますね。

〈得意なこと・好きなこと〉外遊びの中では山登りが一番好きです。とはいえ、インドアの遊びも大好き。1日中マンガ読んでたりするのは至福ですね。物作りも好きで特に布とか紙の素材に惹かれます。草木染、糸紡ぎは今も続けています。食べるのも大好き、どこかへ行った時の記憶は食べたものと連動してるかな笑。

妹尾 裕介さん（考古学）

〈専門分野〉縄文時代、弥生時代に興味をもっています。当時の琵琶湖周辺の生活史、文化史を研究しています。

〈その面白さや苦勞〉文字のない時代を相手にしているので、歴史書などは当然ありません。まさに手探りで探求しているので分からないことだらけです。一方で、考古資料をじっくり見て、残された情報に気づくことができると、当時の人びとの生活が垣間みえるという面白さがあります。

〈出身地とお国自慢〉大阪府東大阪市出身です。生駒山の麓で育ったので山が故郷です。比叡山がきれいに見える琵琶湖博物館は少しほっこりします。粉もん大好きです！

〈得意なこと・好きなこと〉サッカーと読書とお酒が好きです。お酒は地域の特徴がよく出るので、旅行に行った時には必ず地元の酒を学びます。滋賀の酒は美酒！

〈半年働いてみて、博物館についての感想や今後の意気込み〉琵琶湖博物館では、自然や文化のあらたな発見が毎日できて充実しています。フィールドレポーターのみなさんとこれからもジャンルを問わず学んでいきたいと思います。よろしくお願いします。



大槻 達郎さん（植物分類学）

〈専門分野〉DNAの塩基配列をもとに植物の進化の歴史を明らかにする研究をしています。特に、琵琶湖湖岸に生育する海浜植物について、海浜に生育するものとの違いを探しています。



〈その面白さや苦勞〉植物の種は風や鳥等に運ばれて移動できますが、発芽した所からは動けません。私は、動けない植物ならではの環境への適応（形態変化等）の多様性に興味があります。花、葉、根の形や色を観察するといつも新しい発見があるので、研究はやめられません。

〈出身地とお国自慢〉栃木県の大田原市というところで。絶滅危惧種のミヤコタナゴの生息地で知られています。また、平家物語で登場する弓の名手の那須与一ゆかりの地です。

〈得意なこと・好きなこと〉楽器演奏と物産展巡りが好きです。物産展はおいしいだけでなく、食の多様性を実感できます。物産展のチェックをするのが僕の日課です。

奥野 知之さん（学校連携学）

〈専門分野〉

学校団体の受け入れ、体験活動の実施など、教員として学校と博物館の連携について考えます。

〈その面白さや苦勞〉

県外からも来る学校の児童・生徒さんと出会い、体験活動を行うことが新鮮です。体験活動の準備が大変な時もありますが、子どもたちと関わる時間はホッとします。

〈出身地とお国自慢〉

滋賀出身です。保幼小中高校・大学・就職と滋賀からでられない田舎者です。親になって思うことは、子育てするならやっぱり滋賀（田舎）！！



〈得意なこと・好きなこと〉

とにかく今は、ゴルフです。時間があれば、練習とラウンドをします。最近は年のせいか疲れと体調管理にも気を遣いながらです。

新学芸員のみなさん、この琵琶湖博物館を基点にして大いに活躍の場を広げ活動の成果を上げてください。

又、私たちフィールドレポーターの活動にも関心を持ってもらい、これからも色々ご指導頂きたいと思っています。



3. カイツブリ調査 中間報告

調査担当 前田雅子

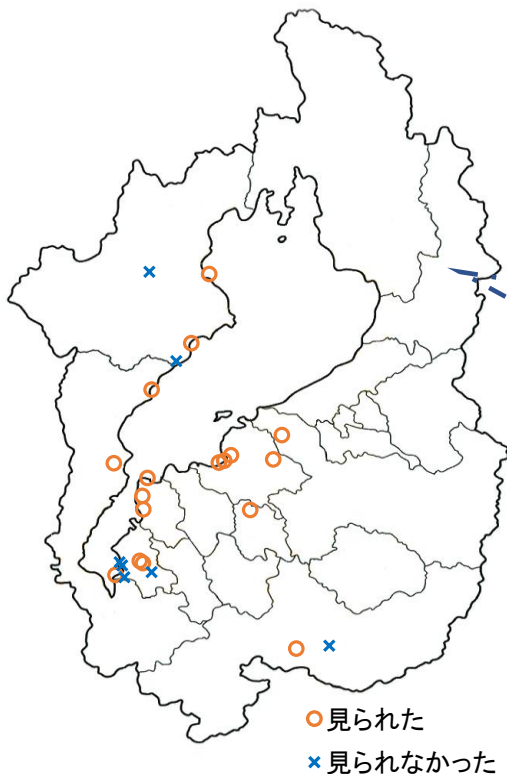
カイツブリ調査がスタートして2ヶ月が経ちました。皆さん、カイツブリは見つかりましたか？5月末までに、9人のレポーターから24件の報告が寄せられています。それによると、調査計画時に予想した以上に、カイツブリは各地で見られています。レポーターの方が知恵と経験を働かせて熱心に調べて下さっているからでしょう。これからヒナが見られる時期になります。調査期間は8月末までですので、以下の生息状況を参考にしてカイツブリに会いに行ってみてください。

カイツブリ・カンムリカイツブリの分布地

24件のうち、カイツブリが見られたのは17地点、見られなかったのは7地点です。分布地点は湖岸周辺に多くありますが、甲賀市、竜王町、近江八幡市の内陸部でも見られています(図1)。生息地点の環境別では、多い順に内湖(7件)、池沼(5件)、河川水路(4件)、琵琶湖(1件)となっています(表1)。またここでは詳細を示しませんが、大まかに言うと、琵琶湖周辺では琵琶湖や内湖や河川の河口部に、内陸部では圧倒的に池沼(ため池)に、カイツブリが見られるようです。是非とも見たいという人は湖岸周辺か内陸部のため池に行かれることをおすすめします。

カンムリカイツブリが見られたのは1件で、高島市新旭町の琵琶湖岸です。カンムリカイツブリ2羽とカイツブリ2羽が、その観察ポイントで両方同時に見られたそうです。

見られなかった地点の報告からは、琵琶湖やため池で見られないことが多々あることがわかります。それがヨシ帯の大きさや人との関連によるのか、また南湖周辺で生息が少ないのかは、各地からの報告がたくさん集まることで明らかになるでしょう。



県の北東部(長浜市~多賀町)がまっ白で、プロットがまだありません。この辺りにはため池もたくさんあって、見つかる可能性は高いと思います。ご報告をお待ちしています。

	琵琶湖	内湖	池沼	ダム湖	河川水路	合計
見られた	1	7	5	0	4	17
見られない	3	0	3	1	0	7

(数字は件数)

図1 カイツブリの分布

表1 カイツブリの環境別の生息の有無

ヨシが無くてカイツブリがいる！

カイツブリはヨシ帯の中に巣を作るので、夏の繁殖時期にはヨシ、マコモ、ガマなどの抽水植物が広がる場所にいると思われます。けれども、抽水植物がない場所でもカイツブリが見られており、調査票に「ヨシはないが、山側の岸（山肌）から樹の枝葉や根、シダが垂れ下がり、カイツブリはそこから出てきた。」と書かれていました。ヨシ帯がない場所にカイツブリはいないだろうと、軽んじてはいけないということですね。

これからの調査でそのような場所に出くわしたら、ヨシ帯の代わりになっているものは何かを観察し、自由記述欄に記録していただけないでしょうか。また、巣が抽水植物群の中ではなく、広々とした水面に見られた場合は、是非お知らせください。

カイツブリの見つけ方のコツ

“ヨシ帯のある止水的環境”の場所に狙いを定めて探すのが基本ですが、皆さんの調査票を拝見すると、なるほど！と感心する、見つけ方のヒントが書いてありましたので紹介します。

その 1——「水辺公園が整備されるまでは、ヨシ帯も多く、カイツブリの数も多かったし、巣も多く見られました。」(Kさん)

⇒まずは、以前にカイツブリを見たところに行ってみましょう。

その 2——「鳴き声でしたので、カイツブリがいることに気がついた。声がした方向を見ていると、しばらくしてカイツブリが出てきた。」(Mさん)

⇒鳴き声でその存在を教えてくれるのは、ありがたいですね。

その 3——「カイツブリが見つからず、あきらめて木陰でお昼を食べていたら、ガマ群の間から 1 羽が静かに泳いで来ました。」(Mさん)

⇒警戒心がとけて出てきたのかもしれませんが。“待てば海路の日和あり”といえます。

1 地点で 10 分（できれば 15 分）くらい粘るのが、見つけるコツかも！?

カイツブリのヒナについて

孵化して間もないヒナは、ボサボサした短い毛で被われていて、白黒の縦縞模様というよりも斑模様に見えます。日が経つにつれて毛のボサボサ感が薄れ、縦縞がはっきり現れるようです。目視の場合は縞模様を確認できないかもしれませんが、親のサイズに比べると明らかに小さいですし、親の近くで兄弟姉妹が連れだって行動するので、子どもであることを判断できると思います。また、親（成鳥）は無駄のない泳ぎ方をするのに対して、子どもはチョロチョロと動き回る点で、違いがあるように思います。

ただ、8 月頃になると子どもが成長し、親と子どもを区別しにくくなるかもしれません。体長、羽の模様、行動から総合的に判断して、調査票への記入をお願いいたします。

4.ツバメの子育て観察（旧東海道の草津宿にて）

草津市 柁島昭紘

今年もツバメが来てくれました。数年前からツバメの子育ての観察している草津宿で今年も3月末頃から観察を始めました。

草津市内、旧東海道の史跡草津宿本陣から南方の大津方面に歩くと立木神社に突き当たります。この間の約800mが観察場所です。（右写真は立木神社前交差点付近から北方の史跡草津宿本陣方向の観察場所です。）

今年もツバメの初見は草津宿の上空では4月3日でしたが、ミノムシ調査で出かけた長浜市湖北野鳥センター上空では3月29日でした。今年も予定通り来てくれました。

巣作りを最初に観察したのは4月10日でした。2羽が昨年利用した巣に泥を運んで修復していました。この場所は呉服店の軒先で、板を設置している上に巣があります。他の巣も同様です。

その後、4月20日には抱卵しているのが観察できました。この頃になると、店の軒先の巣6ヶ所で抱卵していました。

この6ヶ所では、早い場所では5月7日に幼鳥が4羽、親から餌を貰う時に頭を出して口を開けて餌を貰うと直ぐに隠れます。その他の巣も5月12日には同じように幼鳥が見られました。

5月21日、軒先の板の外に出てきて来て、飛び出す準備をしていました。又別の巣の下の電線まで飛びましたが、思案しているようでした。その後他の巣を観察している間に飛び去っていました。

これらの6ヶ所巣では巣立ちしてしまいました。抱卵から約1ヶ月でした。



5月30日、草津宿の上空には数羽の親鳥が店の軒下へ忙しく出入りしています。良く見ると巣立

ちした6ヶ所の巣を修復していました。また他の4ヶ所でも新たに巣が修復できています。これらの巣でやがて抱卵が始まることでしょう。今年も昨年と同じような数の巣が確認できました。一昨年は幼鳥の巣立ちが3回見られ、8月中旬頃の巣立ちで終わりましたが、今年も同じように巣立ちが終わるまで観察したいと思っています。そして、来年も会えるのを楽しみにしています。



写真は全て柁島氏

5. 草津のサンヤレ祭り、他

草津市 久保和友

今年の大型連休は五月晴れの好天に恵まれて、祭り好きの私は草津市内で無形民俗文化財であるサンヤレ踊り7カ所のうち2ヶ所を見ることができた。

7ヶ所とも12時から13時30分頃までほぼ同じ時間に踊りがあるので距離があるので無理なので志那町の^{さんだい}三大神社と志那神社だけ。

太鼓を持って「サンヤレサンヤレ」の踊り。

来年は他の5ヶ所を見るのが楽しみ。



(写真はサンヤレ祭りの例-守山市小津神社)

(写真提供 渡辺学芸員)

踊りで気付いたのは烏丸半島の風物詩「夢水車」が動いていないこと。ブレード損傷と言うことだが耐用年限が来ているのか。蓮池の花が衰えたのと共に若返りの琵琶湖博物館付近の風景の美しさの保存が望まれる。

最後に「草津宿場祭り」

草津市内の人口より多い人手があったと聞く。一日で終日快晴。

4月から旧天井川の草津川が改修され新しい公園が自由に歩けるようになった。見どころは国道1号線のトンネルが消えた風景で、多くの人が車が走る国道の美しさに見ほれていたことだ。

6. 続 近江八幡の怪しいタンポポ

前田 雅子

「掲示板」2016年6月号に、近江八幡市で咲く淡黄色タンポポの正体を捉えられなかったことを投稿しました。昨年の心残りがあって、春が近づいてくるとやっぱり気になり、今年は一つの株に焦点をあてて経時変化を観察することにしました。観察地点は近江八幡市大房町の消防署周辺の道路脇で、シロバナタンポポと淡黄色タンポポと外来種が見られる場所です。



2017年2月4日、2月27日、3月8日の観察では、シロバナタンポポがわずかに咲いているだけで、淡黄色タンポポは見られませんでした。3月22日に淡黄色タンポポが初見されたので、その株に印をつけて定点観察しました。花（頭花）の色は淡黄色という表現がピッタリで、やわらかい色合いのうす黄色でした。この花を見た人は、黄花種か白花種かを迷うと思います。

*写真では実際の色よりも黄色が弱く（白っぽく）写ってしまうことをお断りいたします。

3月28日には花の黄色がやや弱まっていたものの、全体に黄色が認められました。その後、4月3日と4月9日には黄色がかなり薄れ、特に周縁部は白っぽい色になって、4月19日には一見シロバナタンポポと見誤るほど白くなりました。それでもよく見れば、淡黄色の花であることが区別できるくらいに、黄色みが残っていました。終見日の5月1日も同様の状態でした。



3月28日



4月19日



5月1日

4月19日の頭花では、写真の上側中央の小花に、基部から先端にかけて黄色い筋が2本見られた（矢印）。これは、花の黄色を分解する色素がその部分だけ働かなかったものと思われる。なお、4月19日の写真は日射下で撮影したため、実際よりも白色がかなり強くなって見えている。

キクの白い花びらは黄色を分解する酵素が働いて白くなっているとする研究（大宮あけみ 2006 キク花卉における白色形成のメカニズム）があります。キク科のタンポポにおいても、白花種は黄色の色素を分解して白色になっていると考えられ、寒い時期は分解酵素の化学反応が鈍いために黄色が強くなり、暖かくなると化学反応がスムーズに進むので白くなる（本来の白花タンポポの色になる）可能性があります。そのため、同一株でも時期によって花の色が変わるのでしょう。

シロバナタンポポは寒い時期に花の中心部が黄色を帯びますが、先端部まで黄色くなることはありません。一方、観察した近江八幡の淡黄色タンポポは、暖かくなると先端部が白色を帯びますが、花全体が黄色を基本色としていて、真っ白になることはありませんでした。花の色だけで見ると、

定点観察株は少なくともシロバナタンポポではないといえます。甲賀市に分布しているキビシロタンポポと同じ特質（寒い時期は全体が黄色で、暖かくなると先端の黄色が弱まる）を持っているようです。

そこで、タンポポの分類で用いられる形態的特徴について、近江八幡と甲賀市の花で比べてみました。両花ともに総苞比は外苞が内苞の半分、外苞は内苞に圧着、角状突起はなしで、形態上の違いはありませんでした。近江八幡市よりも甲賀市のタンポポで黄色が強いのは、地理的要因つまり甲賀市の方が寒い（寒暖差が大きい）ためと思われます。

近江八幡 淡黄色タンポポ



観察日…4月3日
 花の色…周縁部が白っぽい、全体に淡黄色
 花の直径…42 mm 外苞の向き…圧着
 総苞比…内苞長 18 mm：外苞長 9 mm
 角状突起…なし

甲賀市 キビシロタンポポ



観察日…3月29日
 花の色…外周の小花は白っぽいが中央部は黄色
 花の直径…51 mm 外苞の向き…圧着
 総苞比…内苞長 16 mm：外苞長 8 mm
 角状突起…なし

これらのことから、近江八幡市の淡黄色タンポポと甲賀市のキビシロタンポポは同じ種である可能性が高いと考えられます。ただ、甲賀市に広く分布するキビシロタンポポについては、種の判断が正しいかどうかの疑問符が現在、点灯しています。というのは、キビシロタンポポのタイプ産地である岡山県では寒い時期でも花が白色で、淡黄色にはならないそうです。また、キビシロタンポポは角状突起がないと記載されていますが、滋賀県では角状突起があったりなかったりします。2つのタイプ（白色と淡黄色）のキビシロタンポポについて、遺伝子解析による研究が進行中と聞いています。結果を待ちたいと思います。

花の色の比較

5月1日にはキビシロタンポポ(右)の黄色が弱まっていたが、シロバナタンポポ(左)の白色とは明らかに区別できる。

(甲賀市甲賀町高野)



8. 大津市街・今年のカンサイタンポポ

近江心気郎

今年のカンサイタンポポは元気がなかった。

皆さんの町のカンサイタンポポはどうでしたか。待ちに待った春が来て、タンポポ咲いてくれと願っているのに今春の寒さがうらめしい。

大津市街のカンサイタンポポは3月になっても眠ったまま。4月に入って桜が咲いても目覚めようとしない。背が低いうえに花の小さい株がやっと4月下旬に見られるようになりました。去年の勢いは何だったんでしょう。

地元膳所公園内で黄色一色に染まる絶好のポイントもパラパラ咲きでさみしい限り。暖かい所はないかと探すと、有りました。膳所公園の外堀と歩道。湖側の冷たい風の当たらない日だまり。道路がわの植込みの中から背を伸ばし一生懸命咲いていました。



膳所公園堀端歩道と街路樹と植込み [心気郎撮影]

5月に入ると色々な野草が一斉に伸び出します。こうなるとタンポポは分が悪い。それでも外来種は自分の居場所を見つけて存在を主張しますが、カンサイタンポポは奥ゆかしいので早々と店じまいの風情。

諦めきれないままに去年観察した地点は全部まわって見ました。どの場所も間違いなくカンサイタンポポの花があり株は健在と見て取れました。

少しうれしいのは浜大津港。花の株の少ないのは他と同じですが、去年見られなかった場所にも咲いておりエリアは広がっているように感じました。

他の野草からの影響が少ないと見極めると、さりげなくエリアを広げるといったたかかさ。自然のおこないと生命力の強さを今年の春もしっかり感じさせてもらいました。

ではまた 2018年春会いましょう！



今年のカンサイ山
桜がちってやっとタンポポ開花
花数は2016年の半分以下
2017/4/16 心気郎撮影

赤トンボ（アキアカネ）の夏の調査開催

フィールドレポーター主催、恒例のアキアカネのマーキング調査です。

どなたでも参加できます。子どもさんの夏休みの野外活動としてご家族での参加も大歓迎です。多くの方の参加をお待ちしています。

日時：2017年8月5日（土曜日） 10時5分～15時頃

場所：びわ湖バレイ（大津市木戸の打見山～蓬莱山）

雨天の場合；現地が雨の場合は中止します。中止の時は当日8時頃に参加申込者に連絡します。

集合場所・時間：ロープウェイ乗車券売り場前（琵琶湖博物館の旗目印）10時5分

現地へ交通：(1)自家用車は麓ゲートで入場券購入、ロープウェイ山麓駅前駐車場利用

(2)JR 利用の方、(JR湖西線志賀駅下車 江若交通バス乗り換え)

バス；JR志賀駅前 ①9：02 発⇒9：17 着、②9：46 発⇒10：01 着

費用（各自負担）；ボランティア保険 100 円（既加入者不要）、ロープウェイ乗車料金

（往復割引券利用）中学生以上 1,900 円、小学生以下 800 円

持ち物：弁当、水筒タオル、帽子、長袖、長ズボン、雨具（カッパ、傘等）、他ハイキング用具。なお、捕虫網はお貸しできますが、ご自分で準備できる方は持参してください。

参加申込：7月27日（木）迄、琵琶湖博物館フィールドレポーター担当・大槻学芸員に次の事項を連絡願います。名前、緊急連絡電話番号、参加人数（小学生以下は保護者同伴）、現地までの利用交通、網の借用数。

Eメール freporter@lhm.go.jp 電話 077-568-4811(代表)、

FAX 077-568-4850、郵便 〒525-0001 草津市下物町 1091

当日の緊急連絡電話番号は参加者には連絡します。

昨年の調査の様子

8月7日、山頂（約1000m）は涼しい風が吹いていて、猛暑を忘れてマーキングできました。蝶のアサギマダラも見つかりました。



4月～6月の活動報告

月	日	内容	参加者	主な議題・活動
4月	1日(土)	定例会	7名	①ミノムシ調査の中間報告 ②カイツブリ調査の内容検討
	15日(土)	定例会	8名	①カイツブリに合いに行こう調査案内発行 ②ミノムシ解体結果報告
5月	6日(土)	定例会	8名	①交流会発表内容確認 ②交流会当日の役割分担と機器、機材の前準備
	20日(土)	フィールドレポーター交流会	30名	・飛び出し坊やを調べよう・ミノムシ調査 報告 ・カイツブリ観察会、親睦会を実施
6月	3日(土)	定例会	7名	①掲示板発行日程確認 ②びわ博フェスの催し内容検討確定 ③アキアカネ調査予定
	18日(日)	定例会	7名	①掲示板(87号)発行 ②びわ博フェス、ワークショップの準備とリハーサル

7月～9月の活動予定

	日	時	内容	場所
7月	1日(土)	13:30~17:00	定例会	交流室
	9日(日)	13:00~15:00	びわ博フェスワークショップ	実験室2
	15日(土)	13:30~17:00	定例会	交流室
8月	5日(土)	10:00~17:00	アキアカネ夏の調査	びわ湖パレイ
	19日(土)	13:30~17:00	定例会	交流室
9月	2日(土)	13:30~17:00	定例会、掲示板(88号)発行	交流室
	16日(土)	13:30~17:00	定例会	交流室

定例会は原則として第1、第3土曜日の13:30~17:00に琵琶湖博物館の交流室で行なっています。どなたでも参加できますので、どうぞお気軽にお越しください。見学も大歓迎です。なお、予定が変更になる場合があります。詳細は、下記の電話・メールで、琵琶湖博物館フィールドレポーター係までお問い合わせください。

編集後記

ご近所からお花をいただきました。カシワバアジサイと云うそうで珍しいと思いましたが、町なかを歩いていますと鉢植えで玄関にかざってあるお宅も多く案外ポピュラーなんですね。

梅雨入り宣言がありました。食中毒などにならないよう体に注意しましょう。その後は猛暑の予報です。元気にこの夏をお過ごしください。

(担当 中野)



滋賀県立
琵琶湖博物館
交流センター
〒525-0001 草津市下物1091
TEL 077-568-4811(代) FAX 077-568-4850
E-mail: freporter@lbg.jp